

2019年3月期 決算説明会

リバーエレテック株式会社

2019年6月12日 JASDAQ 証券コード6666

本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力などが含まれます。

ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

アジェンダ



- 1.2019年3月期決算概要
- 2.2020年3月期業績予想
- 3. 今後の施策について

1.2019年3月期決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

2019年3月期主要連結財務指標



大幅減収、経営合理化に伴う費用もあり当期純損失7.5億円

| (単位:百万円) | 2018年 3月期 | 期初予想 (5/11) | 2019年 3月期 | 前期比 増減額 | 前期比 増減率 |
|----------------------------|---------------------|----------------|---------------------|------------------|------------|
| 売上高 | 4,611 | 5,268 | 4,226 | △385 | -8.4% |
| 営業利益 | △376 | 71 | △676 | △300 | _ |
| 売上高営業利益率 | △8.2% | 1.3% | △16.0% | -7.8 pts | _ |
| 経常利益 | △432 | 46 | △681 | △249 | _ |
| 売上高経常利益率 | △9.4% | 0.9% | △16.1% | -6.7 pt s | _ |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | △441 | 40 | △753 | △311 | _ |
| 売上高当期純利益率 | △9.6% | 0.8% | △17.8% | -8.3pts | _ |
| EPS | △59.90 | 5.52 | △102.21 | △42.31 | _ |

- ⇒ 音叉型水晶振動子は堅調。無線モジュール(スマホ)向けが低調。
- **▶ 11月より経営合理化実施も減収による影響大きく、固定費を賄えず**
- **➢ 前期から繰り越された在庫も収益の重しに**

経営合理化の取り組みについて(進捗状況)





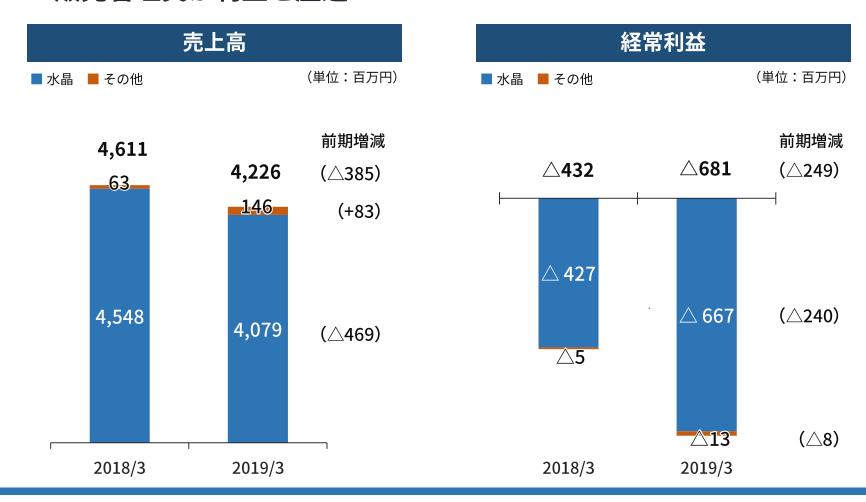
引き続き、経営体質の改善に取り組んでいきます

| | 取り組みの概要 | 進捗状況 | |
|---|---|--|--|
| 1 | 役員報酬等の減額 ・役員報酬を職位に応じて最大40%を削減するほか、役員退職慰労金についても停止する | 継続期間中 | |
| 2 | 管理職の賃金減額 ・管理職の役職手当を20%減額する | 継続期間中 | |
| 3 | 業務体制のスリム化・効率化による固定費削減 ・生産体制の全体最適化に伴う拠点の集約 ・人員適正化による固定費の削減 ・投資有価証券等の売却検討 | River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.にある一部水晶振動子の製造を青森リバーテクノへ移管(計画完了) ・青森リバーテクノの3工場を2工場に集約(2019年7月完了予定) | |
| | | ・2019年3月末において約120名が退職し、目標を達成・保有について検討し、現状では保有判断(今後も適宜検証していく) | |

セグメント別売上高・経常利益



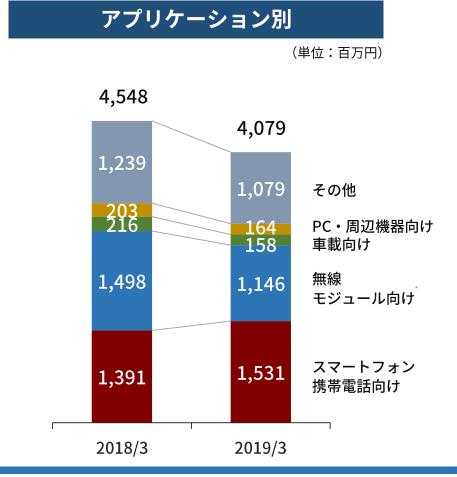
- **☞ 水晶製品:無線モジュール(スマートフォン)向けが不振**
- ☞ その他の電子部品:車載関連向けが好調を持続するも 販売管理費が利益を圧迫



アプリケーション別売上高



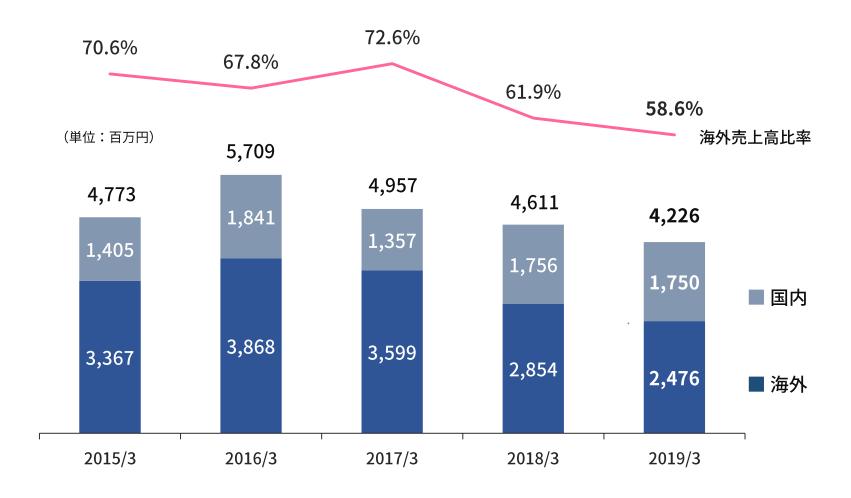
- 小型音叉型水晶振動子はスマートフォン向けが堅調
- **☞ ATカット水晶振動子は無線モジュール(スマートフォン)向けが** 伸び悩む



海外売上高



- **☞ 無線モジュールや中国スマートフォン向けが不振**
- ☞ 海外取引先の国内取入分を加味すれば、海外比率は8割弱に

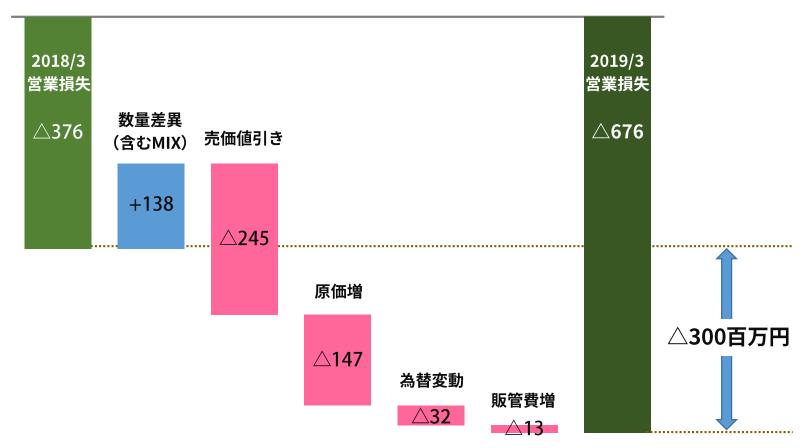


営業利益増減要因(対前期比較)



☞ 水晶製品:無線モジュール(スマートフォン)向けが不振

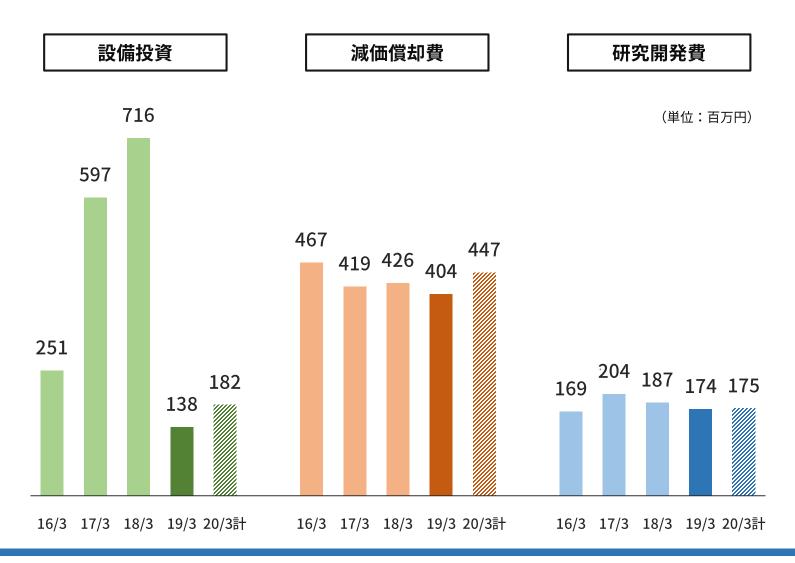
(単位:百万円)



設備投資・減価償却費・研究開発費



資産効率の改善に向けた投資の選択と集中



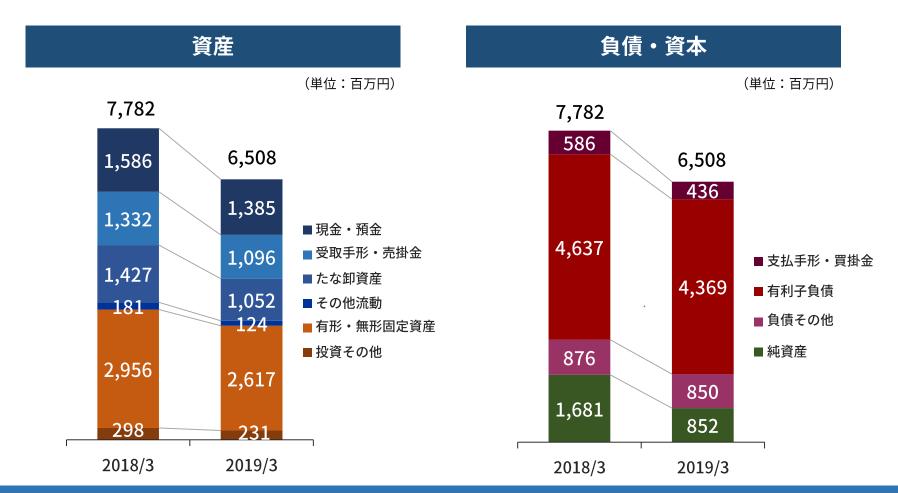
貸借対照表



資産:たな卸資産△375百万円、有形固定資産△338百万円

負債:仕入債務 \triangle 149百万円、有利子負債 \triangle 268百万円

純資産:利益剰余金△753百万円

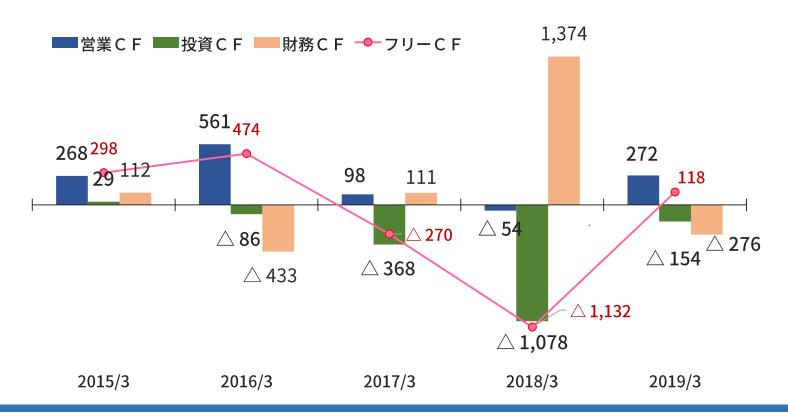


キャッシュ・フロー



- 営業CF:税金等調整前純損失△746百万円、減価償却費404百万円、 売上債権の減少211百万円、たな卸資産の減少363百万円
- 財務 C F:長期借入金の収入988百万円、長期借入金の返済△1,103百万円、短期借入金の減少額(純額)△153百万円

(単位:百万円)



2.2020年3月期業績予想

代表取締役社長 若尾 富士男

2020年3月期の連結業績予想



当期黒字化を達成し、次期以降の成長に向けて準備の期とする

| (単位:百万円) | 2019年 3月期 | 2020年 3月期 | 前期比 増減額 | 前期比 増減率 |
|----------------------------|---------------------|---------------------|------------|------------|
| 売上高 | 4,226 | 4,709 | 483 | 11.4% |
| 営業利益 | △676 | 32 | 708 | _ |
| 売上高営業利益率 | △16.0% | 0.7% | 16.7pts | _ |
| 経常利益 | △681 | 11 | 693 | _ |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | △753 | 10 | 764 | _ |
| EPS | △102.21 | 1.45 | 103.66 | _ |

- ⇒ 中期経営計画の最終年度だが、目標である営業利益率3%達成は困難 当期は経営体質の改善を推進し、次期以降の成長に向けた準備の期とする
- 上期赤字も、下期以降は新製品の寄与等により通期黒字化の見込み
- ▶ 販売プロセスの改善による収益力の向上、生産体制の最適化によるコスト低減、 業務の効率化による販管費の削減など、利益コントロールが重要

2020年3月期の連結業績予想



半期毎の業績推移と2020年3月期の業績予想グラフ



株主還元に対する当社の考え方



当社は、研究開発・設備投資や健全な財務体制を維持するために利益の 一部を留保したうえで、連結業績及び連結配当性向20%等を総合的に勘 案した利益還元を行うことを基本方針としております。

次期の配当につきましては、連結業績に応じた利益配分を目標としつつも、 当社を取り巻く環境が不透明であること、財務体質の改善が喫緊の課題で あることなどから、現時点では未定とし、今後の業績動向を勘案し見通し が明らかになった時点で改めて公表させていただきます。

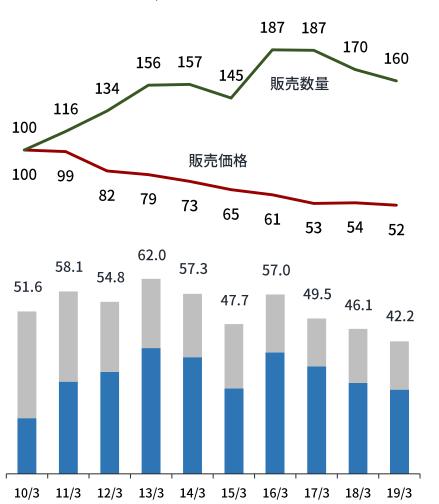
| | | 2020年3月期(予想) |
|------------|---|--------------|
| 年間1株当たり配当金 | • | 未定 |
| 配当金総額 | • | 未定 |
| 配当性向(連結) | • | 20%を目安 |

3. 今後の施策について

現状認識



水晶製品趨勢(2010/3を100とした場合)



- 販売価格は下げ止まり傾向も 販売数量は減少
- ママホ市場の動向で業績が 大きく左右される(特定取 引先の依存度が高い)
- 新製品投入効果が続かず、 投資回収がおぼつかない

赤字体質払拭に向けた方針転換 シェアを追わない、収益性を重視 差別化できる領域へ資源を集中

- 連結売上高(億円、その他)
- 連結売上高(億円、水晶製品事業の携帯・スマホ+無線モジュール関連)

企業価値向上に向けた重点施策





企業価値向上に向け、以下の施策を実行していきます

営業力の強化

開発ポートフォリオの変革

生産体制の全体最適化

財務体質の改善

当期黒字化を達成し、 次期以降の成長に向 けた準備の期とする



利益ある売上拡大に向けた能動的な営業活動の強化を推進する (販売ターゲットの再設定)

販売チャネルの強化・拡大

商社・代理店網の強化

2 海外マーケティングの強化

重要地域:北米と中国 海外強化チームを組織し、代理店とも連携強化 新規取引先の獲得を目指す

パイプライン管理による 組織営業力の強化

営業活動の効率化、チーム営業力の底上げ 商談発掘強化(新規開拓と既存深耕)

グループ内で顧客・市場情報の共有化を図り、新規顧客開拓や成長領域を特定する

開発ポートフォリオの変革



営業活動等で得た情報から開発テーマを絞り込み お客様にこれまでにはない価値を提供する

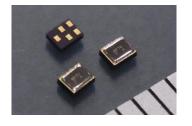
小型・高性能・高品質を可能にする リバー独自の先端技術



水晶フォトリソ 加工技術



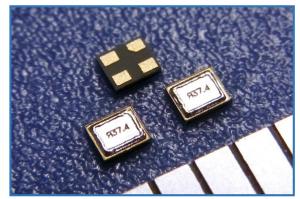
金属間直接接合 封止工法 (MDS)



電子ビーム封止 工法 (EBS) 高精度な水晶フォトリソ 加工を応用したセンサーや 技術優位性を活かした製品 を鋭意開発中

注力製品

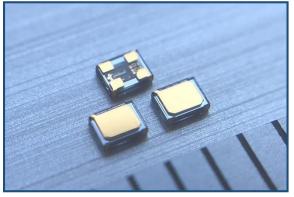




ATカット水晶振動子 **FCX-08**

業界最小クラス(ATカット) $(1.2\times1.0\times0.33$ mm Max.) 無線モジュール、ウェアラブ ル向け等

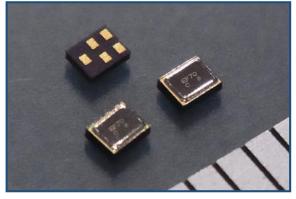
✓主要ICリファレンスへの登録 など、重点周波数対応や動作 温度範囲の拡大に注力



音叉型水晶振動子 **TFX-05X**

業界最小クラス(音叉型) $(1.2\times1.0\times0.35$ mm Max.) モバイル端末、IoT機器、ウェ アラブル向け等

- ✓独自封止技術であるMDS(金 属間直接接合法)を採用
- √量産を開始



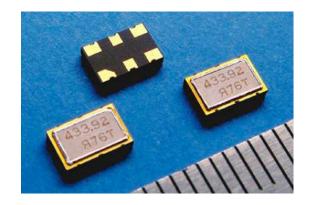
SAW FILTER

1411&2016の超小型サイズ 車載等、高周波無線通信向け

- √独自封止技術であるEBS(電 子ビーム封止工法)を採用し、 高信頼性を確保
- √量産化に向け対応中

新製品(開発中)





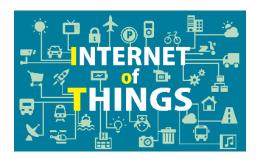
Lamb波発振器

- Lamb波共振子の開発に成功(特許第5563378号他)
- 基本波での発振周波数が300MHz以上となる板波を応用し、高周波数帯に おいて、位相雑音特性やジッタ特性に優れる強力なソリューションを提供
- ・常温偏差と周波数温度特性、経時変化においてATカット水晶振動子と同等 の高い安定度を確保

300 MHz~1.2 GHzØ 高周波帯を直接発振

高精度の基準信号が不可欠なハイエ ンド用途に最適

→高度な次世代通信における通信品 質を確保



高速・大容量データ通信

1 GHzでの 低位相雑音・低ジッタ

良好な位相雑音特性の実現が困難で あった高周波領域に対応

→最高水準の位相雑音特性が要求さ れる「測定・計測用途」に最適



高精度測定

SAW発振器を上回る 良好な温度特性

従来のSAW共振子では実現困難だっ た「広温度範囲での周波数安定性」 が可能に

→車載をはじめFA機器、ロボット等、 様々な産業用途に応用可

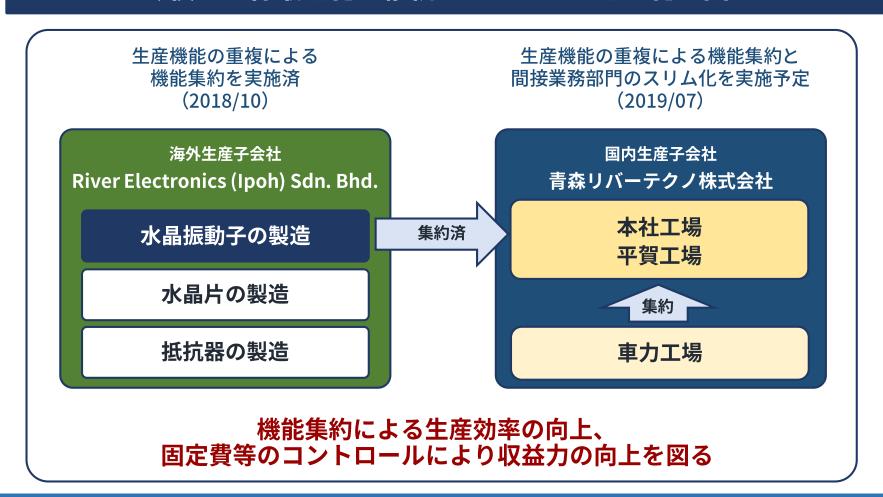


対象物検知

生産体制の全体最適化



11/9発表の経営合理化による生産体制の集約、 人員適正化については計画完了 今後も全体最適化は継続し、コストの適正化を図る





収益力向上とともに財務体質の改善を図り 企業価値向上を目指す

資産のスリム化・ 効率化

資産のスリム化を推進し、資産の効率化を図る

- √ 受注予測の精度を高め、棚卸資産の適正化を図る
- ✓ 投資有価証券等、今後の事業活動に寄与しない資産 の処分を検討する

投資の選択と集中

成長領域へ経営資源を集中させる

✓ 新製品の新設及び既存製品の設備改修への投資を 実行予定

運転資本の削減

棚卸資産の圧縮により運転資本を削減し、 有利子負債を圧縮する



リバーエレテック株式会社